



2021年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年10月9日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 2020年10月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年2月期第2四半期の業績(2020年3月1日～2020年8月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第2四半期	16,384	23.3	271		192		516	
2020年2月期第2四半期	21,350	0.4	1,083	15.5	1,121	15.0	692	21.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第2四半期	49.32	
2020年2月期第2四半期	66.18	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年2月期第2四半期	17,992	14,023	77.9
2020年2月期	20,133	15,333	76.2

(参考) 自己資本 2021年2月期第2四半期 14,023百万円 2020年2月期 15,333百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期		0.00		75.00	75.00
2021年2月期		0.00			
2021年2月期(予想)				75.00	75.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年2月期の業績予想(2020年3月1日～2021年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,800	16.2	1,000	58.8	1,100	56.2	230	84.7	21.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年2月期2Q	12,446,700 株	2020年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	2021年2月期2Q	1,978,841 株	2020年2月期	1,978,814 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年2月期2Q	10,467,873 株	2020年2月期2Q	10,467,886 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大により、急速に悪化し極めて厳しい状況となりました。

当社が属する食関連業界においても新型コロナウイルス感染症拡大の影響は大きく、5月に緊急事態宣言が解除され個人消費は回復傾向にあるものの、新しい生活様式の普及により消費者心理は抑えられ、更に新型コロナウイルス感染症が再度拡大する等、依然として厳しい状態が続いております。

このような環境において、当社ではお客様並びに従業員への新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底する一方、売上減少が著しい中、業務効率化を図り経費を最低限に留めるよう努めました。

また売上面においては、第1四半期会計期間(2020年3月～5月)は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としての休業・営業時間短縮の影響が大きく、全社既存店売上前年比は66.1%でしたが、5月の緊急事態宣言解除後の第2四半期会計期間(2020年6月～8月)は同90.1%と徐々に回復しております。

出退店・改装につきましては、「セレオ八王子精肉店」等計5店を出店するとともに、4店を改装、14店の退店を行いました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は16,384百万円(前年同期比23.3%減)、営業損失は271百万円(前年同期は1,083百万円の営業利益)、経常損失は192百万円(前年同期は1,121百万円の経常利益)、四半期純損失は516百万円(前年同期は692百万円の四半期純利益)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期会計期間より報告セグメントの区分を一部変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、ご好評いただいている毎月9のつく日の「肉の日」企画や「松阪牛一頭セール」等の拡充により、販売拡大の強化に取り組みました。

精肉事業の売上においては、第1四半期会計期間(2020年3月～5月)は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休業及び営業時間短縮の影響を受けましたが、5月の緊急事態宣言解除後の第2四半期会計期間(2020年6月～8月)は「巣ごもり需要」を取り込み、既存店売上前年比が102.8%と全社を牽引しました。

出退店につきましては、「セレオ八王子精肉店」の出店を行いました。

この結果、当事業の売上高は7,027百万円(前年同期比2.4%減)、セグメント利益は733百万円(同8.6%増)となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、『黒毛和牛牛めし&スタミナ焼肉重』や期間限定の『沖縄あぐ〜豚めし』等の肉弁当の強化を図りましたが、緊急事態宣言解除後も新型コロナウイルス感染症再拡大による外出自粛や度重なる豪雨・長梅雨等の天候不順の影響により、特に都心部の百貨店・駅ビル施設での売上・客数減が業績に影響する結果となりました。

出退店・改装につきましては、1店を出店するとともに、3店を改装、1店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は4,663百万円(前年同期比29.4%減)、セグメント損失は40百万円(前年同期は590百万円のセグメント利益)となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、第1四半期会計期間(2020年3月～5月)は大型ショッピングセンター等の休業及び営業時間の短縮により既存店売上前年比は68.7%でしたが、緊急事態宣言解除後の6月以降は、季節限定の『さくらんぼ大福』『ピオーネ大福』『シャインマスカット大福』等のフルーツ大福シリーズや、「おはぎ」「どら焼」等の定番アイテムの強化に取り組み、第2四半期会計期間(2020年6月～8月)の既存店売上前年比は95.3%まで回復しました。

出退店・改装につきましては、「口福堂池袋ショッピングパーク店」等2店を出店するとともに、1店を改装、5店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は2,908百万円(前年同期比21.5%減)、セグメント利益は17百万円(同93.4%減)となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う政府の外出自粛要請に伴い大部分の店舗で休業となりました。その後の営業再開に際し、新たにテイクアウト対応を図り売上の拡大を図ったものの、依然外食への抵抗は強く、厳しい状況が続きました。

出退店につきましては、「柿安 Meat Expressららぽーと豊洲店」を出店するとともに、7店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は996百万円(前年同期比64.5%減)、セグメント損失は567百万円(前年同期は20百万円のセグメント損失)となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、コンビニエンスストアへの「すき焼井」等の夏ギフトの拡充や、新規販路拡大による売上の伸長に取り組みましたが、5月の緊急事態宣言解除後も百貨店への集客は重く、業績に影響しました。

出退店につきましては、1店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は788百万円(前年同期比23.5%減)、セグメント利益は62百万円(同60.8%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ2,141百万円減少し、17,992百万円となりました。

流動資産は1,912百万円減少し、9,934百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少1,689百万円及び売掛金の減少280百万円等であります。固定資産は229百万円減少し、8,057百万円となりました。主な要因は、建物の減少222百万円等であります。

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ831百万円減少し、3,968百万円となりました。

流動負債は768百万円減少し、3,392百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少396百万円及び未払消費税等の減少305百万円等であります。固定負債は62百万円減少し、576百万円となりました。主な要因は、資産除去債務の減少60百万円等であります。

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ1,310百万円減少し、14,023百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の減少1,301百万円等であります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、5,797百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は742百万円となりました。支出の主な内訳は、非資金損益項目等の調整を加減した営業取引による支出335百万円、法人税等の支払額409百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は170百万円となりました。収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入600百万円等であり、支出の主な内訳は、定期預金の預入による支出600百万円、有形固定資産の取得による支出114百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は776百万円となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額774百万円等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月期の業績予想は、新型コロナウイルス感染症拡大により今後の見通しが極めて難しく、業績予想を合理的に算出することが困難としておりましたが、現在、緊急事態宣言解除後の感染症再拡大による影響、並びに新しい生活様式の普及による経済活動は一定の収束をみせております。つきましては、当第2四半期累計期間の結果を踏まえ、当第1四半期(2020年3月～5月)を底に業績は徐々に回復に向かうと判断し、2021年2月期の業績予想を算出いたしました。詳細については本日(2020年10月9日)公表いたしました「2021年2月期業績予想に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (2020年2月29日)	当第2四半期会計期間 (2020年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,087	6,397
売掛金	3,090	2,810
商品及び製品	277	262
仕掛品	181	179
原材料及び貯蔵品	186	153
その他	23	131
流動資産合計	11,846	9,934
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,212	2,990
土地	2,224	2,224
その他(純額)	744	674
有形固定資産合計	6,182	5,890
無形固定資産	278	261
投資その他の資産	1,825	1,905
固定資産合計	8,286	8,057
資産合計	20,133	17,992
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,239	1,357
未払法人税等	531	134
賞与引当金	364	365
役員賞与引当金	38	14
その他	1,987	1,519
流動負債合計	4,160	3,392
固定負債		
資産除去債務	570	509
その他	68	66
固定負債合計	639	576
負債合計	4,799	3,968
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	16,560	15,259
自己株式	△3,542	△3,542
株主資本合計	15,362	14,060
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△28	△37
評価・換算差額等合計	△28	△37
純資産合計	15,333	14,023
負債純資産合計	20,133	17,992

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
売上高	21,350	16,384
売上原価	10,792	8,495
売上総利益	10,558	7,889
販売費及び一般管理費	9,474	8,161
営業利益又は営業損失(△)	1,083	△271
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	1
受取保険金	17	—
工事負担金等受入額	4	—
雇用調整助成金	—	68
その他	17	10
営業外収益合計	42	81
営業外費用		
その他	4	1
営業外費用合計	4	1
経常利益又は経常損失(△)	1,121	△192
特別損失		
固定資産除売却損	7	4
減損損失	0	208
店舗閉鎖損失	1	134
その他	—	63
特別損失合計	9	411
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	1,111	△603
法人税、住民税及び事業税	363	63
法人税等調整額	55	△151
法人税等合計	418	△87
四半期純利益又は四半期純損失(△)	692	△516

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	1,111	△603
減価償却費	304	301
減損損失	0	208
雇用調整助成金	—	△68
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1	1
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△18	△23
受取利息及び受取配当金	△2	△2
受取保険金	△17	—
工事負担金等受入額	△4	—
有形固定資産除却損	7	4
売上債権の増減額(△は増加)	△1,026	282
たな卸資産の増減額(△は増加)	△36	50
仕入債務の増減額(△は減少)	275	117
未払金の増減額(△は減少)	56	△41
未払又は未収消費税等の増減額	103	△312
その他	283	△250
小計	1,036	△335
利息及び配当金の受取額	2	2
法人税等の支払額	△220	△409
保険金の受取額	17	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	835	△742
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△600	△600
定期預金の払戻による収入	600	600
有形固定資産の取得による支出	△271	△114
差入保証金の差入による支出	△40	△14
差入保証金の回収による収入	13	7
その他	△108	△47
投資活動によるキャッシュ・フロー	△406	△170
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△677	△774
その他	△4	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△681	△776
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△252	△1,689
現金及び現金同等物の期首残高	6,614	7,487
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,361	5,797

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言が全国に拡大し、当社店舗においても休業及び営業時間の短縮を実施しました。未だ予断を許さない状況が続いておりますが、5月下旬の緊急事態宣言解除以降、徐々に事態は沈静化の方向に向かっていると思われまます。このため、繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損損失等に関する会計上の見積りを行うにあたっては、当第2四半期会計期間末時点で入手可能な情報に基づき、業績は第3四半期以降年度末に徐々に回復していくものと仮定を置いて判断しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	7,202	6,608	3,703	2,805	1,029	21,350	—	21,350	—	21,350
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	903	10	21	10	527	1,473	—	1,473	△1,473	—
計	8,106	6,618	3,724	2,816	1,557	22,823	—	22,823	△1,473	21,350
セグメント利益 又は損失(△)	675	590	260	△20	158	1,664	—	1,664	△580	1,083

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△580百万円には、各報告セグメントに配分していない全
社費用△600百万円及びその他調整額19百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグ
メントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期累計期間において、0百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	7,027	4,663	2,908	996	788	16,384	—	16,384	—	16,384
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	642	9	18	4	351	1,026	—	1,026	△1,026	—
計	7,670	4,672	2,927	1,001	1,139	17,411	—	17,411	△1,026	16,384
セグメント利益 又は損失(△)	733	△40	17	△567	62	204	—	204	△476	△271

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△476百万円には、各報告セグメントに配分していない全
社費用△495百万円及びその他調整額18百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグ
メントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益又は損失(△)と調整を行っており
ます。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間より、事業管理部門の変更に伴い、惣菜事業に含めておりました一部の店舗につ
いて、精肉事業へ報告セグメントを変更しております。なお、前第2四半期累計期間のセグメント情
報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「惣菜事業」、「和菓子事業」及び「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ8百万
円、29百万円、170百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期累計期間において、208百万円であります。